

[第7章] 目録作成 (カタログギング)

ポール・アイズロフフォル (著)

公文書館・図書館・博物館において、フィルム・コレクション管理の鍵を握るのが記述だ。記述は、フィルムの物理的な特徴とコンテンツに関する重要な情報を捉え、アイテムと利用者のあいだのテキストリンクを提供する。文化的な収蔵施設において、記述の基本的形式となるのが目録作成だ。

1. 国際的な枠組み

組織が異なれば、目録レコードの作成や使途も異なる。一概にレコードといっても、カードに手書きすることもあれば、内部データベースを通して、あるいはネットワーク化されたシステムを介して作成されることもある。アクセスに必要な基本情報のみを提供するものもあれば、そのアイテムの履歴や運用に関する詳細を提供するものもあるだろう。

あらゆる収蔵施設が何らかの方法で目録作成を実践している。博物館においては、コレクション管理を巡るその他すべての職務の中核に目録作成が位置する。図書館においては、極めて重要な公開ツールだ。公文書館においては、さらに詳しい検索手段となるだろうものの第一段階にあたる。こうした多様な組織を横断する国際的に共通の目録作成の枠組を提供するのが、MARC フォーマット・目録作成マニュアル・統制語彙だ。

◇ MARC フォーマット 過去数十年のあいだ、世界中の文化的・科学的組織において、目録作成の実践に目覚ましい標準化をもたらす進歩があった。その理由は、部分的には、目録作成がコレクション管理とアクセスにおいて重大な役割を担うためだが、それだけではなく、収蔵施設同士の情報交換を促すためでもある。最も良く知られたデータ構造の標準が、図書館のコミュニティが開発した MARC フォーマットだ。Machine Readable Cataloging (機械可読目録) の頭文字をとった MARC は、コンピューター・システム間のデータ交換を促進するための書誌情報を記録するシステムだ¹。MARC は、論理的かつ包括的で、しか

著者のポール・アイズロフフォルは、ネブラスカ州立歴史協会の視聴覚コレクションのキュレーターで、本書の編集委員の一人でもある。

¹ MARCフォーマットの背景は、Betty Furrie (著) 『Understanding MARC Bibliographic: Machine-Readable Cataloging』 (第7版 米国議会図書館 カタログギング・ディストリビューション・サービス) に詳しい [www.loc.gov/marc/umb/] 。

も個々の収蔵施設の要求に応えられるだけの柔軟性も備えたデータを構成し、提示するためのモデルを提供する。

データの構造化と共有のための実証済みの枠組みとして、MARC はアーカイブのコミュニティの大勢に受け入れられてきた。目録作成の標準の開発に出遅れていた博物館の専門職でさえ、MARC の特徴をある程度採用するようになった²。MARC は現在のところ、公文書館・図書館・博物館のコレクション管理ソフトのパッケージの多くに組み込まれている。

◇ 目録作成マニュアル MARC フォーマットは目録規則と共に使用されることを前提に設計されている。英語圏の国々では、ほとんどの図書館と多くの公文書館が『英米目録規則』³の第 2 版 (AACR2) に従って資料を記述している。AACR2 は図書、定期刊行物、地図、音楽、視聴覚メディアを含む多様な資料を記述するための一般的なルールを提供する。しかしながら、フィルム、芸術作品、手稿といった特殊資料を扱う目録担当者 (カタログガー) たちは、そのコレクション記述するにあたって、さらに具体的なガイドラインを必要とする。1984 年、『Archival Moving Image Materials: A Cataloguing Manual』の出版により、フィルムとビデオに関してこの問題提起がなされた。その 2000 年版 (AMIM2) は、現状を考慮したルールへとアップデートされている⁴。

『AMIM2』が提供するの一般的な枠組みだ。この分野におけるあらゆる実践を記録するため、映像アーキビスト協会 (AMIA) は様々な収蔵施設から動的映像目録レコードの実例を集めて分析した。この『AMIA Compendium of Moving Image Cataloging Practice』は《現実に即した》モデルを提示し、そこから実務者は、各々の所蔵品に相応しい解決法を見出すことだろう⁵。

² 博物館のための共通の目録作成標準は存在しない。博物館のコミュニティは専門領域によって独自のガイドラインを採用している。例えば、歴史博物館の場合はとくにMARCに忠実に従っている。

³ 『英米目録規則』(第2版 米国図書館協会 2002)

⁴ Wendy White-Hensen (著) 『Archival Moving Image Materials: A Cataloging Manual』(米国議会図書館 映画放送録音物部 1984)、AMIM Revision Committee and Motion Picture, Broadcasting, and Recorded Sound Division (編) 『Archival Moving Image Materials: A Cataloging Manual』(第2版 米国議会図書館 カタロギング・ディストリビューション・サービス 2000)。

⁵ AMIA カタロギング&ドキュメンテーション委員会(編) 『AMIA Compendium of Moving Image Cataloging Practice』、Abigail Leab Martin (著) 『Association of Moving Image Archivists』(SAA 2001)。

◇ 統制語彙 目録の専門家は、組織を越えて一貫性ある言語を育てるため、《統制された》、あるいは標準化された語彙を作り上げてきた。この手引きは一般的にシソーラスの形式をとり、探索可能な階層構造で用語を示す。ここにおいても『Library of Congress Subject Headings』で図書館のコミュニティが先行した。美術館のように専門性の高いグループは、独自の語彙を作成してこれに続いた⁶。映画の収蔵施設のためには『Moving Image Materials: Genre Items』と『Moving Image Genre-Form Guide』がある⁷。

2. 職場でフィルムの目録作成を実践する

出版されたマニュアル、ハンドブック、用語集は、個々の目録作成システムが全国的な枠組みを構築するのを後押ししてきた。この枠組みを各組織で実践するには、利用者に役立つアクセスポイント及び記述の精粗について考える必要がある。収蔵施設の多くは、独自の目録作成マニュアルや用語集を作成することで、現場の実践を記録し、出版されたガイドラインを補足している。

◇ データ要素 その他のアーティファクトと同じく、フィルムには独特の分類と記述の慣例がある。一般的に、多様な研究資料に使用されるデータ要素は、フィルムの特殊性に合わせて適用されてきた。『AMIM2』や『AMIA Compendium』のような情報源は、いかにしてこうしたデータ要素が適応されるかを定義付けるものだ。例えば図書館が《形態的記述》と呼ぶフィールド、あるいは博物館が《数量》と呼ぶフィールドは、フィルムのレコードでは巻数・尺数・フィルム素材の種別・色や音の特性などを記入するために使用されることが多い。同様に、博物館が芸術家の名前を入力するのに使うフィールドには、フィルムのレコードでは映画作家・製作者・脚本家の名前が入力される。

重要なデータ要素は、その他すべてのコレクション資料からそのアイテムを識別する一意のID番号だ。ID番号を付与する方法は収蔵施設によって異なる。例えば図書館は、米国議会図書館分類法やデューイ十進分類法に基づいた請求記号を使うことが多い。博物館に見受け

⁶ 例えばGetty・リサーチ・インスティテュートの「Art & Architecture Thesaurus OnLine」
[www.getty.edu/research/tools/vocabulary/aat] を参照のこと。

⁷ Martha M. Yee (編) 『Moving Image Materials: Genre Items』 (Cataloging Distribution Service 米国議会図書館 1988)、Brian Taves、Judi Hoffman、Karen Lund (編) 『Moving Image Genre-Form Guide』 (米国議会図書館 映画放送録音物部 1998) [www.loc.gov/rr/mopic/migintro.html]

られるのは、そのアイテムの受入番号に由来する目録番号を使う方法だ⁸。公文書館におけるフィルムのID番号は、そのフィルムの属するコレクションと関連づけられていることが多い。フィルムの収蔵施設によっては、配置に関するデータを受入番号に組み込むこともある。

フィルム目録作成：一般的なデータ要素

ID番号／請求記号	タイトル	別タイトル（複数の場合もある）
制作年	制作者／撮影監督	その他クレジット
形状	フィルムストック	要素
フィルム要素の種別	色の種別（カラー／白黒）	音の種別
長さ（フィート数）	上映時間（分数）	フィルム状態
概要	ジャンル	付属資料

◇ コントロールのレベル 図書館や博物館の目録は、たいてい、個々のアイテムに重きを置くが、フィルムによっては、グループの一部として記述するほうが適していることもある。ある家族のホームムービー、ある大学の学部でシリーズ化された教育映画、あるフィルムとそのアウトテークなどは、アイテム同士のコンテキスト上の関係を維持するために、ひとまとまりのユニット、つまりコレクションとして扱うことができる。コレクションを一つの目録レコードに記述し、時により詳しい検索手段でそれを補うことが一般的だ。これについては本章で後に詳しく述べる。

フィルムは、スチル写真・脚本・宣材・撮影機材・映写機材などの紙資料やアーティファクトと共に収蔵組織に届くことが多い。目録システムによって、こうした補足資料をフィルムのレコードに追記することもあれば、別のレコードに記述することもある。古文書や企業記録など、より大きなグループの一部として取得されたフィルムは、一般的に、以下のレコードに示すように全体的なコレクションの記述の中で言及される。

⁸ 最も一般的な所蔵番号の付け方の一つに、取得年とその年の取得順という2種類の数字を組み合わせるものがある。例えば「2003.034」なら、2003年の34番目に取得されたことになる。取得された中の特定アイテムを示すもう一つの番号を追加することもある。つまり「2003.034.05」なら、上記のコレクションの中の5番目のアイテムになる。

フィルムを含むマルチメディア・コレクションのための目録レコード

コレクション番号	RG3263
コレクション名	アルドリッチ, ベス・ストリーター 1881～1954年
日付 (複数になることもある)	1892～1988年 多くは1925～1940年
サイズ	紙資料約12立方フィート、写真凡そ100枚、16mm映画フィルム1リール
概要	ベス・ストリーター・アルドリッチは、短編及び長編小説家。このコレクションは彼女の作家としての仕事とプライベートに関わるもので、彼女の小説『Miss Bishop』を原作とする映画 (映画題名『美しき生涯』) に関する資料を含む。
アクセス制限	すべての資料にすぐにアクセスできるようなになっていない。詳しくは協会のスタッフに尋ねること。
使用制限	これら資料の出版に先立つ使用許可や著作権問題については、研究者が責任を持つこと。

◇ コンテンツへのアクセスポイント アクセスポイントとは、記述が検索されうる名称、語、あるいはその他のデータ要素のことだ。フィルムのための検索可能なフィールドには、タイトル・作成者・形状・クレジット・ジャンル・その他目録レコードに記入された要素がある。

多くの映画研究者にとって大切なアクセスポイントは、フィルムの主題だ。フィルムの主題は、多くのビジュアル資料と同様に、多数にも複雑にもなり得ることを常に念頭に置こう。フィルムは視覚による、そしておそらく聴覚による、場所・人々・出来事・器物の記録を含むだけでなく、より大きい、だが形のない概念やテーマについての情報を提示する。例えば、1巻のホームムービーに、赤ちゃん・家並み・パレード・自動車が映っているとして、それはまた、子ども時代・家庭生活・建築・コミュニティの祝祭・ドライブ旅行についての映像でもある。収蔵施設が主題項目のために度々使うのが、『Library of Congress Subject Headings』と『Thesaurus for Graphic Materials I: Subject Terms』⁹で、こうした一般的な統制語彙をより専門的なリストで補足している。いずれにしても、フィルムのコンテンツへのアクセスポイントを作成する際は、常に「このフィルムは何の映像だろうか?」「何

⁹ 『Library of Congress Subject Headings』 (第26版 国議会図書館 図書館サービス Cataloguing Policy and Support Office 2003) 、米国議会図書館 Prints and Photographs Division (編) 『Thesaurus for Graphic Materials I: Subject Items (TGM) 』 (第2版 米国議会図書館 1995)

[www.lcweb.loc.gov/rr/print/tgm1.RG3263] 。

についての映像だろうか?」と自問自答しよう。

◇ より詳細な記述 前述のように、フィルムによっては理路整然と、より大きなグループの一部として記述されることがある。ある意味、たとえ1本のフィルムでもシーンやショットの《グループ》とみなすことができる。映画研究者は実際のところ、フィルムの中に、特定の主題あるいは視点を記録した短いセクションを探し求めていることが少なくない。

1件の目録レコードでは、一般的に、そこまでの詳細を伝えきれない。研究者を助けるために、所蔵施設の多くはフィルム又はコレクションの目次の役割を果たすような、さらに詳しいガイドを作成することもある。こうしたガイドは、具体性において様々で、公文書館が古文書や企業記録のために編纂してきた検索手段に似ている。

1本のフィルムを構成する個々のシーンは、ショットリストの中に個々に記述できる。ショットリストはコンテンツだけでなく、時にフィルムの部分ごとの視覚的又は技術的なクオリティまでも網羅する。目録レコードがショットリストに触れ、研究者にこのツールが利用可能なことを知らせるのが理想だ。

『BEEF RINGS THE BELL』のショットリスト抜粋

タイトル	Beef Rings the Bell
製作年	1960年代頃
色	カラー
ショットリスト	00:00:41:18-00:05:18:05 タイトル・クレジット、アニメ w/ 食事の時間にベルを鳴らす牛。 WS PAN 牛の群れ w/ BG 雪をいただいた山。VS 牧場を眺める牛 (steers)。VS 冬の牧場の牛、w/ 牧場主が牛に干し草を与える。VS 群れの中の雄牛。カウボーイ (馬上の男たち) の牧牛。フェンスの囲いの中の牛。牛にスプレーする男たち w/ 害虫駆除剤、浸し塗り、予防接種。焼き印。 00:05:18:06-00:08:47:20 カラー、サウンド、1960年代頃。秋、馬上のカウボーイが牛を誘導する。WS ZO 平原を進む牛 (steers)、牧畜。放牧地の囲いの中の牛。群れを率いるカウボーイ、牛を運ぶ…

◇ フィルムを組織の目録の中に統合する 本テキストで終始述べているように、数多くの保存やキュレーションに関する問題のため、文化的な収蔵施設においてフィルムがその他のメディアから引き離されている。しかしながら、目録作成の上では、フィルムはその他の

ほとんどの資料と同様に扱われる。なるほどフィルムの目録レコードには、映画独自の形態及び情報のクオリティの記述が含まれるが、こうした基本事項は、既存のシステムに組み込むことができる。

3. ゼロからのスタート

初めてフィルム目録作成に着手する組織には、『AMIM2』や『AMIA Compendium』のような情報源がガイダンスや盛りだくさんの実践例を提供してくれる。その他の情報源としては、目下進行中の2つの重要な合同プロジェクトがある。

〈Moving Image Collection (MIC)〉ウェブサイト [www.gondolin.rutgers.edu/MIC] は、AMIAと米国議会図書館の主唱で、国立科学財団の助成を受けたものだ。MICは、動的映像コレクションのための共通の検索メカニズムを提供し、総合目録¹⁰、組織のディレクトリ、目録作成ツールも組み込む予定だ。プロジェクトの一環として、MICの開発者はMARC、ダブリン・コア、MPEG-7メタデータ標準¹¹に基づいてフィルムを記述するための《柔軟性を残しつつ標準化されたメタデータ構造》を作成している。一般利用のためのテンプレート作成も計画されている。

目録作成のテンプレートは、既に〈Independent Media Arts Preservation (IMAP)〉から入手できる。これは、インディペンデントの電子メディアの保存に捧げられた共同体だ。IMAPはMARCフォーマットに基づいた目録作成のテンプレートを、フィルム、ビデオ、オーディオのために開発した。このテンプレートは、ソフトウェアのFileMaker Proで使用できる。このテンプレートについて、さらにその他の有用な情報が、この組織のウェブサイトから入手できる [www.imappreserve.org]。

4. レコードの共有

MICの開発者らが企画する総合目録は、フィルムの保存専門家にも研究者にも、朗報となるだろう。これが完全な実施に至るまで、収蔵組織は、既に準備の整ったシステムを使用で

¹⁰ 総合目録は、複数の収蔵施設にあるコンテンツに関する情報を、一つの統合された序列にまとめる。

¹¹ 「Dublin Core Metadata Element Set」と「MPEG-7 Multimedia Content Description Interface」は物理的資料やデジタル資料を記述するために標準化されたデータ要素のセットだ。詳しくは「Dublin Core Metadata Initiative」のウェブサイト [www.dublincore.org] を参照のこと。

きる。何十年ものあいだ、図書館や公文書館は、二つの主要な書誌データベースの〈Online Computer Library Center (OCLC)〉と〈Research Libraries Information Network (RLIN)〉を通して、目録レコードを蓄積してきた。インターネットの検索エンジンの出現によって、研究者は、直接各組織のウェブサイトからレコードを探し出すこともできる。こうしたアプローチのすべてに共通する重要な目的は、収蔵フィルムの記述レコードを広範に利用可能にすることによって、収蔵施設がフィルムの使用を促し、その価値を高めるだけでなく、映画史の集合的な記録を構築することだ。

ケース・スタディ：ノースイースト・ヒストリック・フィルム

『Maine Marine Worm Industry』（1941年 1,300 ft. 16mm カラー 無声）

目録作成が保存とアクセスを結びつける。当アーカイブが保存する『Maine Marine Worm Industry』は、いかに目録がその資料を一般公開するのに役立つか、そしてアーカイブの言うように、目録が「一世紀に渡る映像史と関わることで、より多くの目、耳、頭脳を獲得する」手段になり得るかを教えてくれる。

本作は、インタータイトルの付いたアマチュア制作のドキュメンタリーで、釣りの餌用のシーワーム（イワムシ）の養殖と販売をテーマにしている。作成したのはプロの写真家イヴァン・フライで、ニューカッスルでの虫の販売を各州にまたがる事業にまで成長させた人物だ。1991年にフライは当アーカイブにフィルムを寄贈した。2002年、助成金を得て、我々はそのフィルムを保存し、ビデオテープの閲覧用コピーを一般の利用者用に作成した。

『Maine Marine Worm Industry』は、当アーカイブの目録に入っている。

当アーカイブには2種類の目録——一つは一般公開用で、もう一つは職員用——があり、互いに補完的なデータベースを通してアクセスできる。内部レコードは内容がより詳細にわたっている。コレクションごとに、レコードは物的なアイテムを記述し、取得の歴史、権利、保存状態、コピーの保管場所その他の重要な内部管理データに関する秘密情報を加える。

当アーカイブのウェブサイト [www.oldfilm.org] で利用できるオンライン・コレクション・ガイドのレコードには、異なる目的がある。それはメイン、ヴァーモント、ニューハンブシャー、マサチューセッツ各州の利用者のためのフィルム・コレクションへの道案内だ。利用者はコレクション名、日付、主題、あるいはより複雑な全文検索で目録を調査できる。「ブースベイ（地名）」「ロックウィード（海藻）」あるいは「干潮」といった語で検索すると、イヴァン・フライのドキュメンタリーの記述に行き当たり、コピーの貸出しや購入に関する情報と共に、ストリーミング画像で虫を育てている作業者の作業をみることができる。

当アーカイブは直接の利用者のために目録を構築したが、国際標準に適合した目録レコードを設計した。そのレコードはMARCフォーマットを簡潔にしていくらか微調整を加えたもので、総合目録データベースにもエクスポートできる。総合目録データベースを目標に、当アーカイブはMICの試験サイトとして参加している。